

(3) 2018年(平成30年)4月16日(月曜日)

物流Weekly

ユーエイキャスター 意匠性重視の構造設計

段差乗り越えキャスター

ユーエイキャスター(雄島耕太社長、大阪府東大阪市)が、物流の効率化をアシストする新たな製品をリリースする。9月1日発売予定の「段差乗り越えキャスター」は、ちょっとした段差を快適に走行でき、作業負担の軽減や物流品質の向上に貢献する。

単身世帯の増加などで個人向け宅配が急増し、小口・多頻度の配送ニーズが高まる一方で、物流現場におけるドライバ不足の深刻化という課題も浮き彫りとなって作業負担の軽減や、業務効率の向上を求める声が多く聞かれている。これを解決するため同キャスターが開発された。新製品開発室の羽田智樹課長は、「顧客の声をもとに製品化した。今後、実際に物流現場で使われてもらい、量産に向けて改良を重ねていく」と説明する。

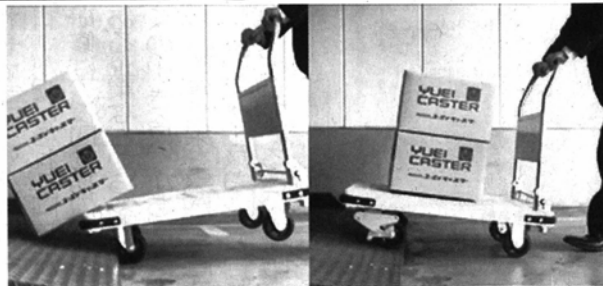
段差が運搬作業の妨げとなり、無理な乗り上げや迂回などを経験した作業員は多い。最大約50mmの段差を乗り越える秘密は、業界で初めて採用した「リンクカム機構」にある。後輪が段差に当たると、後輪が押し返されるのと同じように、前輪が路面を押す力に変換されるとい

う仕組み(特許出願済み)から、前輪と後輪が運動して動くことで、スムーズに段差を乗り越えることができる。運搬台車だけでなく、さまざまな業界での製品に生かすことのできる可能性を秘めている。

新製品は、約2年半の構想を経て、実用化のめどがつけられた。羽田課長は、「現場の声を大切に、約7割がオーダーメイド品である弊社だからこそ、今回の製品が完成した。何回も試作を重ね、耐久性だけでなく、意匠性を重視した構造設計」とした上で、「新たな物流ソリューションとして、大いに活躍が期待できる。女性や高齢の作業員でもスムーズな作業が実現する」と



羽田課長
後輪が段差に当たると、後輪が押し返されるのと同じように、前輪が路面を押す力に変換されるとい



話を。同社のデザイン顧問の監修による外観にもこだわった製品で、用途に合わせ車の材質バリエーションを増やす予定。既存のキャスターから簡単に付け替えることも可能という。

同社ホームページでは、従来品と新製品の運搬時の比較動画を公開している。また、6月20日から22日まで東京ビッグサイトで開催される「機械要素技術展」で展示される。

(木村麻理奈)

推奨積載荷重は40から60kg(小型台車への設置の場合)。価格は1個あたり8000円から1万円を想定しているが、製品はコンセプトモデルで、今後汎用モデルが開発されれば価格を抑える可能もあるという。